

中古文学会 2026 年度秋季大会 開催案内

【重要】 会員のみなさまへ

2026 年度中古文学会秋季大会の開催形態につきましては、常任委員会において協議した結果、下記のようにすることといたしましたので、お知らせ申し上げます。ご了承の上、ご参加いただきたくお願い申し上げます。

記

- (1) 秋季大会は、全プログラムを対面にて開催します。参加にあたり事前申し込みを原則としますが、会員の場合、事前申し込みなしでも当日の参加を受け付けることとします（大会参加費として1,000円を現金でお支払いいただきます。釣銭の必要がないようご配慮ください）。
- (2) 現地参加が困難な方々のことも勘案し、シンポジウム・研究発表等を録画しまして、大会日程終了後、事前申し込みをされた会員に限って視聴できるようにします（学会ポータルデスクの協力を得て録画いたしますが、画質・音質等の保証はできません。また、研究発表については録音のみの場合もありえます）。なお、視聴後に質問等を行うことはできません。
- (3) 1 日目に開催する懇親会への参加を希望される方は、同封の振込票によって事前申し込みを行ってください（事前申し込みが原則です）。懇親会費は、一般会員 8,000 円、学生会員 4,000 円です。なお、懇親会の形態は今後の状況によって変更となる場合があります。また、振り込まれた懇親会費は、懇親会が中止となった場合以外、返金できません。ご了承ください。
- (4) 2 日目の昼食（お弁当）の販売を行います。希望される場合は、同封の振込票によって申し込みを行ってください（当日の申し込みはできません）。昼食代（お茶付）は、1,300 円です。
- (5) 現地参加の場合、同封の振込票によってなるべく事前申し込みを行ってください。録画視聴を希望される場合は、上記（2）のとおり、事前の申し込みを必須とします。いずれも大会参加費（資料集代を含む）は 1,000 円です。なお、「資料集」の PDF による配付は行いません。
- (6) 事前申し込みをされた方には、大会の前（10 月初旬を予定）に「資料集」と「録画視聴の案内」を郵送します。現地参加の方は、「資料集」を会場に持参してください。また、録画視聴の方は、大会日程終了後に「録画視聴の案内」にしたがって視聴してください。
- (7) 当日に予想される気象状況等によっては、大会の全部または一部のプログラムを中止もしくは録画による提供とすることもあります。開催形態を変更する場合は、当日までに学会公式サイトに掲載します。
- (8) 会員外の方も、学会 HP からの事前申し込みによって現地参加ができることとします（ただし、懇親会参加、昼食の注文、録画視聴は不可）。大会参加費（1,000 円）については、当日の受付にて現金でお支払いいただきます（釣銭の必要がないようご配慮ください）。

そのほか、最新情報は学会公式サイトを通じてお知らせします。本件に関する事務局・会場校への個別の問い合わせは、お控えくださるようお願い申し上げます。中古文学会事務局

中古文学会公式サイト https://chukobungakukai.org/
--

大会日程・大会会場

大会日程	10月24日(土) 13:00～17:00	〈受付〉12:30 受付開始 中古文学会賞授賞式、シンポジウム、懇親会
	10月25日(日) 10:00～15:30	〈受付〉9:30 受付開始 研究発表会(午前)、委員会、研究発表会(午後)
大会会場	安田女子大学 〒731-0153 広島県広島市安佐南区安東6丁目13-1	
懇親会会場	ホテルグランヴィア広島	

大会参加要領

1. 大会参加費

- ・参加費(資料集代を含む)：現地参加、録画視聴いずれも1,000円
- ・懇親会：一般会員8,000円、学生会員4,000円
- ・昼食代(2日目)：1,300円
- ※入金された参加費の自己都合による返金、または他の参加者への付け替えなどには応じられません。
- ※領収書は、振込受領証に替えることとし、基本的に別途発行いたしません。

2. 申込方法

- ・大会参加申込フォーム(別紙参照)よりお申し込みのうえ、同封の振込票による入金をもって申し込みを承ります。必要事項をご記入の上、上記の額をご入金ください。
- ・加入者名 中古文学会大会実行委員会
- ・口座番号 00240-3-99727

申込フォームは
こちらから→



3. 会員外の方の 申込方法

- ・学会公式サイトより申込締切までにお申し込みください。
- ・申し込み時にご記入いただいた個人情報は、本大会の運営管理にのみ使用させていただきます。
- ・参加費(1,000円)は当日会場受付にて現金でお支払いください(釣銭の必要がないようご配慮ください)。

4. 申込締切

2026年9月25日(金)

- ※締切後の申し込みは承ることができません。
- ※締切後の入金は固くお断りいたします。

5. 住所・所属等 の変更

- ・住所・所属等の変更は、学会公式サイトの「会員ページ」をご利用ください。同封の振込票に記載されても、変更について承ることができません。

6. 学会費の納入

- ・同封の振込票は【大会参加費専用】です。学会費は納入できません。また、大会会場での学会費納入は受け付けません。

7. 出張依頼状

- ・氏名・職名・提出先(所属長名)を明記の上、ポータルデスクへメールでお申し込みください。

8. 会場について

- ・キャンパス内は、全面禁煙です。ご不便をおかけし、申し訳ありません。
- ・キャンパスには駐車場がないため、公共交通機関のご利用をお願いいたします。
- ・大会期間中、学内の食堂、コンビニエンスストアは営業していません。

9. Wi-Fiについて ・当日限定の Wi-Fi を用意します。会場に掲示する QR コードからアクセスし、当日の受付でお渡しするパスワードを使用してください。
10. 宿泊について ・各自で早めにご予約ください。
11. 交流広場
(フリースペース) ・以下の要領で交流広場を開設します。研究者相互の交流・情報交換の場としてご活用ください。
用途：博士論文要旨・論文抜刷・研究プロジェクト報告書等の展示や配布、研究会・学会等の紹介、会誌等の展示や配布・販売など。
資格：本学会員に限る。団体の場合は、本学会員が代表者であること。
申込：氏名（団体の場合は団体名および代表者名）・連絡先の住所・電話番号・メールアドレス・展示物等の内容について、9月25日（金）までに大会実行委員会へメールでお申し込みください。
注意：スペースに限りがあるため、申し込み先着順で受け付けます。
広場には、机と椅子を用意します。それ以外の対応はしません。
当日は、受付で利用手続きをしてください。
交流広場は大会開催中開場します。利用時間は任意です。出品物の持ち込み、管理は各自で行い、終了後はすべて持ち帰ってください。
12. 臨時託児室 ・ご希望の方は事務局までお問い合わせください。
申込：保育対象者の人数・年齢・利用日および希望時間帯を明記し、9月25日（金）までに大会実行委員会へメールでお申し込みください。折り返し、詳細な手続き等をご案内します。
13. 問い合わせ先 ・大会全般に関すること
中古文学会事務局
〒980-8576 宮城県仙台市青葉区川内 27-1
東北大学大学院文学研究科 横溝博研究室内
E-mail：info@chukobungakukai.org
・参加申込、参加費納入、出張依頼状に関すること
中古文学会ポータルデスク
〒134-0015 東京都江戸川区西瑞江 4 丁目 21-28 株式会社新典社内
E-mail：info@chukobungakukai.org
・会場、交流広場に関すること
中古文学会大会実行委員会
〒731-0153 広島県広島市安佐南区安東 6 丁目 1 3 - 1
安田女子大学文学部日本文学科 古瀬雅義研究室内
E-mail：furuse@yasuda-u.ac.jp
-

大会プログラム

会 場 安田女子大学

【シンポジウム】 5号館2階大講義室 5201

【研究発表会】 5号館2階大講義室 5201

【休憩室】 5号館2階大講義室 5202

【委員会】 5号館2階中講義室 5206

【書籍販売】 5号館1階カフェテリア

【交流広場】 5号館1階カフェテリア

懇親会会場 ホテルグランヴィア広島

第1日 10月24日(土)

12:30	受付開始
13:00-13:05	開会の辞 安田女子大学学長 箱田雅之
13:05-13:20	中古文学会賞授賞式
13:20-17:00	シンポジウム 中四国地方の古典籍の調査とその活用 趣意説明 安田女子大学 古瀬雅義 〈第1部〉「基調講演」 〔講演①〕文献資料の調査研究のあり方を考える 大阪大学〔名〕 伊井春樹 〔講演②〕悉皆調査による全容把握をめざして 二松學舎大学・広島大学〔名〕 妹尾好信 ……休憩(14:20-14:35)…… 〈第2部〉「報告」 〔報告①〕毛利元就の時代の資料と文芸 一大庭賢兼の事績から— 県立広島大学〔名〕 西本寮子 〔報告②〕鳥取・岡山地域の大名文芸の展開 天理大学 原 豊二 〔報告③〕地方大名家の文事 一字和島伊達家における調査を中心に— 愛媛大学 小助川元太 ……休憩(15:50-16:20)…… 〈第3部〉「総合討議」 フロアとの質疑応答 〈コーディネーター〉広島大学 小川陽子
18:00-20:00	懇親会

第2日 10月25日（日）

9:30 10:00-11:20	受付開始 研究発表会 〔研究発表①〕 『蜻蛉日記』の和歌に見える字音語表現について 国文学研究資料館・日本学術振興会特別研究員(PD) 島田 遼 〔研究発表②〕 『源氏物語』蜻蛉巻の匂宮告白場面の検討 ——贈答歌における作中引用の効果を中心に—— 九州大学〔院〕 西山隼生 ……休憩（11:20-13:00）・委員会（11:30-12:10）……
13:00-15:20	〔研究発表③〕 『浜松中納言物語』吉野の姫君の創成 立命館大学〔院〕 石垣梨紗 〔研究発表④〕 『栄花物語』巻第十九における諸本の表現世界 ——五尺屏風色紙形の書体を端緒として—— 広島大学〔院〕 郡司健太郎 ……休憩（14:20-14:40）…… 〔研究発表⑤〕 『枕草子』「職の御曹司におはしますころ、西の廂に」試解 京都先端科学大学 山本淳子
15:25-15:30	閉会の辞 中古文学会代表委員 横溝 博

※中古文学会秋季大会の開催に合わせ、安田女子大学図書館・稲賀文庫のコレクションを、10月24日（土）、25日（日）に特別展示します。開館は午前9時～午後5時、入館料は無料です。

中四国地方の古典籍の調査とその活用

趣意説明

安田女子大学

古瀬雅義

〈第1部〉「基調講演」

〔講演①〕文献資料の調査研究のあり方を考える

大阪大学 [名]

伊井春樹

〔講演②〕悉皆調査による全容把握をめざして

二松學舎大学・広島大学 [名]

妹尾好信

〈第2部〉「報告」

〔報告①〕毛利元就の時代の資料と文芸 一大庭賢兼の事績から—

県立広島大学 [名]

西本寮子

〔報告②〕鳥取・岡山地域の大名文芸の展開

天理大学

原 豊二

〔報告③〕地方大名家の文事 一字和島伊達家における調査を中心に—

愛媛大学

小助川元太

〈第3部〉「総合討議」

フロアとの質疑応答

〈コーディネーター〉広島大学

小川陽子

【趣 意】

日本各地で所蔵されている古典籍は、様々な災害や戦禍をくぐり抜けてきたものが数多く存在する。一九七二年（昭和四七）五月に開館した国文学研究資料館は、国文学研究資料の調査研究センターとしての役割を担ってきた。全国各地に所蔵される古典籍を対象に、各地域の研究者たちを文献調査員に任命し、所蔵者の了解を得て、現地で地道に原物資料を調査し、その書誌情報を調査カードに記録してきた。撮影した影印データとともに蓄積された資料は国文学研究資料館のホームページから文化資源として国内外に広く発信され、それらを活用した研究者個人の研究や共同研究が盛んに行われている。

その研究活動に先立つ一九六五年（昭和四〇）七月に、広島大学文学部国文研究室を拠点とする広島中世文芸研究会が『瀬戸内国文写本文献目録』をガリ版刷で刊行している。研究代表者の金子金治郎氏によるまえがきには「瀬戸内海を挟む中国・四国の地域に、現に所蔵されている古文書のうちから、国文学を主にした写本のみを取り上げ、所在別に排列したのがこの目録である。編集の経緯を述べると、この地域に住み、この地域の古文芸・古文書に深い関心を持つわれわれが、『瀬戸内海文化圏における古文芸の総合的研究』というテーマ

による共同研究を計画し、昭和三九年度の文部省科学研究費（総合）の交附を受け、その第一年次の目標としたのが、この文献目録の作成であった。（中略）この地域の国文写本目録としては、まだ未完のものであるが、二千数百点におよぶ貴重な古文献を収録しえたことは、地域の文化財を明らかにし、学芸の進歩を促すに役立つと信ずるが、それも所蔵者各位の御理解と御協力によるものと感謝にたえない」とある。

同じく広島大学文学部国文研究室を拠点とする広島平安文学研究会が一九六七年（昭和四二）から刊行してきた『翻刻 平安文学資料稿』には、主宰の稲賀敬二氏によるあとがきに「たとえ最善の本でなくても、ある一本が翻刻されていれば、各地に散在する諸本の調査に当って便利であろう。その本の性格を報告するにも、相違点をあげるだけで事がすむ。諸伝本の完全な調査の結果をまとめて世におくる事は、望ましい事ではあるが、暫定的にすぐ利用できる一本が翻刻されている事は、何かと研究上の便宜があるであろう。（中略）何時の日にか、どなたかの手で、より完全な資料がおまとめいただけます時まで、しばらくご利用いただければと存じます」の文言が記されている。

瀬戸内海地域に限らず、全国各地でその地域に所蔵されている文献資料の調査と報告が多くなされ、その活動が今なお継続されていることは、地方にまだ多くの文献資料が存在しているということにほかならない。二〇二四年九月刊行の『日本文学研究ジャーナル』第三一号では、妹尾好信氏・原豊二氏の編集で「中国地方の古典文学資料」が特集され、熊本守雄氏の巻頭エッセイ「大名家伝来の書籍のことなど」以下、全九名の研究者たちにより、広島県の厳島神社、山口県の毛利家、岡山県と鳥取県の池田家に伝来する古典籍・文献資料と、島根県立図書館、山陰歴史館に所蔵される文献の調査に基づいた研究成果が掲載されている。

今回広島で開催される中古文学会のシンポジウムでは「**中四国地方の古典籍の調査とその活用**」というテーマのもと、中四国の地域に住むわれわれシンポジウムのメンバーが、実際に現地で原物を実見し調査してきた古典籍についてそれぞれ紹介するとともに、研究にまとめて成果を発信していくことの重要性和意義をいまいちど確認して討議する。全国各地の古典籍調査とその活用について考えていくための足掛かりとなることを企図し、今後の本文研究や諸本研究の進展に多少なりとも寄与することができれば幸いである。

（古瀬雅義・小川陽子）

【基調講演】

講演① 文献資料の調査研究のあり方を考える

伊井春樹

私は個人的に修士論文で「源氏小鏡」を対象としたことで、資料の全国的な調査を始めるようになり、今日まで多方面の資料との出会いがあった。その間、古典籍資料を中心に調査収集し研究する、公的機関の国文学研究資料館の創設もあった。調査の体験を重ねながら、資料の扱い方、保存方法、研究内容等においてさまざま学ぶことができた。とりわけ強い影

響を受けた三点を示したい。第一は為家筆『土左日記』とのめぐりあい、第二は徳川美術館蔵「小倉百人一首」色紙の紙背和歌の存在、第三は古書目録の調査と、そこに掲載されていた竹沢養溪筆「平家物語下絵小図」との関係である。今後の文献調査の意義とともに、将来のあり方を提言したい。

講演② 悉皆調査による全容把握をめざして

妹尾好信

地方の小さな城下町などには、近世後期から明治頃までの書写・刊行になる古典籍、いわゆる和本が多数残されていて、目を驚かすほどの貴重本はなくとも、なかなか魅力的なコレクションを形成していることがよくある。それらは図書館や歴史資料館のような公共施設にひっそりと収蔵されていて、あまり人の目に触れない状況にあることも少なくない。私は広島大学に勤務した三十年ほどの間にそういう資料を調査し、目録を作成する作業を機会あるたびに行ってきた。その経験を通じて痛感することは、ある文化圏における学問や文化・教養の実態を知るためには残された資料の悉皆調査が必要だということである。そのことを、山口県岩国市と広島県の厳島を例として報告したい。

【報告】

報告① 毛利元就の時代の資料と文芸 一大庭賢兼の事績から一

西本寮子

大内氏の滅亡後、中国地方一円の覇者となった毛利氏の周辺にどれほどの文芸資料が蓄積され後世に伝わったのか、その全容は必ずしも明らかになってはいない。戦国期、国人領主たちは生き残りをかけて時に同盟を結び、時に離反を繰り返しながら、各地で攻防を繰り返した。それに伴って動いた文芸資料のなかには、数奇な運命を辿って毛利元就の周辺にとどまり、今に伝わったものがある。本報告では、大内氏の旧臣で元就に取り立てられた大庭賢兼（宗分）が関与した資料に注目する。賢兼の事績と、資料に書き留められた情報に基づいて、時代の状況を視野に入れつつ、毛利氏の本拠地、広島県北部地域に伝わった資料を中心に、その特徴の一端について報告したい。

報告② 鳥取・岡山地域の大名文芸の展開

原 豊二

中国地方の東部にあたる鳥取県と岡山県に存在した米子藩、鳥取藩、岡山藩について、その藩主（大名）を中心とした文芸上の営為を見渡したい。具体的には、米子藩・中村一忠による八幡神社への三十六歌仙額の寄進（慶長一〇年）、鳥取藩と岡山藩との国替え時（寛永九年）における小鴨神社への三十六歌仙額の移動、岡山藩・池田光政や池田綱政などによる文芸上の営為を資料に基づいて報告する。中でも、この地域における池田家の動きは非常に重要であり、それは資料の残存ということのみならず、地域文化の牽引役という役割をも担ったと考えられる。加えて、大名一家の参勤交代と江戸藩邸での生活という観点についても意

識しておきたい。

報告③ 地方大名家の文事 一字和島伊達家における調査を中心に― 小助川元太

平成二二年の愛媛大学着任以来、国文学研究資料館の地域資料調査員として愛媛県内を中心とした地域資料の調査に参加してきた。中でも宇和島伊達文化保存会とは、平成二七年に国文学研究資料館、宇和島伊達文化保存会、愛媛大学の共催による宇和島伊達四〇〇年記念祭ワークショップ・シンポジウムをきっかけに関係を深め、国文研の調査に加えて、科研の共同研究での調査もさせていただいている。宇和島伊達家には書籍としての文学資料は少ないものの、伝来する調度品や歴大な文書から当家における文学享受のありようを窺うことができる。今回は、宇和島伊達家における調査を通して見えてきた地方大名家の文事の一端について報告したい。

研究発表要旨

10月25日(日)

〔研究発表①〕

『蜻蛉日記』の和歌に見える字音語表現について

国文学研究資料館・日本学術振興会特別研究員(PD) 島田 遼

『蜻蛉日記』における漢詩文の影響はいくつか指摘されているが、字音語（ここでは漢語及び漢字の音に由来する語を指すものとして用いる）を用いた和歌表現についてはあまり検討されていない。和歌における字音語は、例えば『古今和歌集』を見ると墨滅歌を含む全一、一一一首中、字音語が用いられるものは一三首で約一・一七％である。対して『蜻蛉日記』では全二六一首中一五首の約五・七五％であり、道綱母歌に限れば約九・七六％にのぼる（一二三首中一二首）。勅撰和歌集と仮名日記という異なる形態の作品ゆえそのまま比較することは躊躇されるが、『蜻蛉日記』の字音語の多さは注目すべきものがある。そのような和歌表現の分析から道綱母が歌ことばに対してどのような意識を持っていたのか、また日記にどのように組み込もうとしているのかを考察する。

『蜻蛉日記』では、類例のない和歌表現に対して道綱母はその表現が特異であることに自覚的であり、そのような表現の場合、和歌の前後の地の文に素材として示し、読み手に理解できるように作品を構成していると考えられる。これは仮名で日記を書くということの特徴をよく理解していたからであろう。本発表の検討を通して、道綱母の歌ことばに対する認識、晴と褻をどう捉えていたのかを提示する。また家の女としてほぼ公と関わることのなかった彼女の立場、周辺人物の和歌表現との比較から『蜻蛉日記』の和歌の特性について論じたい。

〔研究発表②〕

『源氏物語』蜻蛉巻の匂宮告白場面の検討 ―贈答歌における作中引用の効果を中心に―

九州大学〔院〕 西山隼生

『源氏物語』蜻蛉巻には、匂宮が中君に対して自身と浮舟の関係を告白する場面が描かれる。同場面には、中君が事情を予め把握していたことが描写されるが、それを知らない匂宮は一貫して浮舟との関係を隠蔽してきた。その匂宮が当場面で唐突に告白するに至った動機を解明するため、本発表では直前の薫と匂宮の贈答歌を再検討する。

問題の贈答歌は従来、薫の「忍び音や」歌が「匂宮と浮舟の浮気を疑う歌」、匂宮の「橘の」歌が「薫からの疑念をはぐらかす歌」と解釈されているが、匂宮歌は早蕨巻における薫の「見る人に」歌と類似する表現を持つ。「見る人に」歌は薫と中君の浮気を疑う匂宮の「折る人の」歌に対する返歌であり、その内容は、中君との浮気を認める体の冗談である。問題の贈答歌は、この早蕨巻での贈答歌と詠歌状況及び表現が類似しており、返歌の直後の「わづらはし」という文句も一致している。そのため、蜻蛉巻の匂宮歌を薫の「見る人に」歌の作中引用と見なして、その引用意図についても検討する必要がある。

これらの検討によって、本発表では匂宮歌が薫に対して「浮舟との浮気を暗示する」歌であった可能性を提示する。そして、中君が同席する環境での和歌贈答こそが、直後の告白を導く転機となったという見通しの下に、告白場面の表現を考察する。

〔研究発表③〕

『浜松中納言物語』吉野の姫君の創成

立命館大学〔院〕 石垣梨紗

従来、『浜松中納言物語』における吉野の姫君は、唐后との姉妹関係から、「ゆかり」や「形代」的な人物とされてきた。しかし姫君は「ゆかり」に留まらず、主人公との恋物語のなかで成長し、変容する人物である。拙稿『『浜松中納言物語』における吉野の姫君像一病・死のかかわりから―』（『論究日本文学』一二二号、二〇二五年五月）では、姫君が病や死に接近する人物として描かれ、物語展開の契機になることを指摘した。本発表では、こうした姫君の「あえか」「らうたげ」な人物像に注目する。姫君の儂さや頼りなさを強調する描き方は、『源氏物語』の夕顔を想起させる。そこで、姫君を夕顔的な人物として造型する手法が、物語展開にどのような効果を持つのか論じる。

まずは、姫君を形容する語彙から夕顔像との比較を行った。その結果、両者は華奢で儂げな外見を持つ受動的な人物として描かれ、男君から「らうたげ」な存在と認識されていることがわかった。さらに、姫君は物語の大部分で、中納言や語り手の視線を通して描かれる点で夕顔と共通する。この手法は、男君の女君に対する親近感と愛情の強さを示すとともに、女君の実像を読者に見せない機能を持つ。姫君の場合、最終巻における変容を際立たせるために、夕顔を想起する人物に造型されたと結論づける。加えて、『夜の寝覚』『狭衣物語』等平安時代後期物語に見られる、夕顔の系譜を引く人物として吉野の姫君を位置づける。

〔研究発表④〕

『栄花物語』巻第十九における諸本の表現世界 ―五尺屏風色紙形の書体を端緒として―

広島大学〔院〕 郡司健太郎

長らく梅沢本を最善本としてきた『栄花物語』研究に対し、久保木秀夫氏は、梅沢本が性格の異なる本文を取り合わせた本であることを指摘した上で、梅沢本を含めた各伝本の個性に即した読解の必要性を提言した（「『栄花物語』本文再考」『中古文学』第八十号・二〇〇七年一二月）。これを契機として、中村成里氏による学習院本の検討（「学習院大学文学部日本語日本文学科所蔵『栄花物語』の本文」『中古文学』第八十九号・二〇一二年六月ほか）、小島明子氏による富岡本の検討（「『栄花物語』富岡本増補記事の検討」『日本文学』第六十三巻第六号・二〇一四年六月ほか）等、『栄花物語』の各伝本の研究が進められている。今後さらに、具体的な場面を比較検討し、諸本に構築された表現世界を精緻に読解していくことが必要だろう。

本発表では、五尺屏風の色紙形の書体記述を端緒として、巻第十九の禎子内親王裳着の場面における表現世界を検討する。当該箇所は、梅沢大型本が「草仮名」、陽明文庫本・富岡本が「しん」（楷書体）、西本願寺本が「おかしけ」とする異同がある。色紙形に書かれた詩歌の内容の想定にまで影響を与える異同であり、看過しがたい。さらに同じ裳着の場面において、単純な誤写誤読とは見なしがたい異同箇所が他にも複数見られる。これらの異同の検討によって、禎子内親王の裳着とその背景に対する各伝本の認識を探り、それぞれの特質の一端を明らかにしたい。

〔研究発表⑤〕

『枕草子』「職の御曹司におはしますころ、西の廂に」試解

京都先端科学大学 山本淳子

本発表では、『枕草子』のいわゆる雪山の章段について幾つかの新たな読解を試みる。そのポイントと試解および根拠は次のとおりである。

㊦長徳四年十二月、職の御曹司に雪山が築かれ、定子女房らはそれがいつまで消えずにあるかを賭けた。清少納言は正月十五日と答えた。

（試解）清少納言の答えは個人的な賭けでなく定子の久々の参内の成功を祈る願掛けだった。

（根拠）正月十五日は懷妊と男子の誕生を祈る俗信・粥杖の日である。参内近しの情報は女房も共有したと思われ、目的が皇子誕生であることは自明なので、清少納言はこの日に向けて願を掛けたと考える。

㊧定子は元日に降った新雪を雪山から除かせた。

（試解）願掛けの厳正を期するため、定子自身の真剣さを示す。

（根拠）定子は参内すれば破戒尼の汚名を着ると自覚しつつこれを引き受けたので、参内成功にかける思いは真剣だったと考える。

㊨正月十四日夜、定子は雪山を破壊させた。

（試解）定子は願掛けがほぼ成功したと見て取り、清少納言の詠歌を阻止した。

（根拠）清少納言は自詠が広く語り伝えられることを望んでいたので、定子は事が道長側に漏れて不測の事態を招くことを防いだと考える。

㊤十五日以降に、天皇は清少納言の賭けについて殿上人らに語った。

（試解）清少納言の願掛けを深慮と評価することで、定子に皇子を生ませる意志を改めて鮮明にした。

（根拠）皇統途絶の怖れに対し今ここで動く姿勢を明示したと考える。

アクセスマップ

交通案内系統図

JR利用	JR広島駅 (JR山陽新幹線)	JR山陽本線 約2分	JR新白鳥駅	新白鳥駅	約17分	安東駅(安田女子大学前)	徒歩 約4分	安田女子大学
	広島港	市内電車 約30分	電停 本通駅	本通駅	約22分			
飛行機利用	広島空港	リムジンバス 約40分	高速バス停 中筋駅	中筋駅	約7分			
高速バス利用	高速バス停 中筋駅							
	高速バス停 大塚駅		大塚駅	約13分				

QRコード

キャンパス案内図（会場の5号館は⑭です）

Campus Map

①アストラムライン安東駅

②Sophia(心理教育相談室・乳幼児子育て相談室)

③通学専用エスカレーター(安東駅前～キャンパス)

④正門 ⑤水の広場

⑥1号館

1階 紀伊國屋書店・セブン・イレブン1号館店

2階 事務局(アカデミックサポートエリア)

⑧8号館

⑨A棟

1階 事務局／2階 保健センター

⑩まほろば館

1階 学生食堂まほろば

2階 サントワール(ベーカリーカフェ)

⑪薬草園 ⑫陶芸室棟 ⑬2号館

⑭9号館／屋上 天文台

⑮5号館

1階 カフェテリア こもれび

(Trattoria こもれび・セブン・イレブン5号館店)

⑯図書館 ⑰6号館 ⑱7号館 ⑲テニスコート

⑳弓道場 ㉑グラウンド ㉒体育館 ㉓

㉔安田幼稚園安東園舎